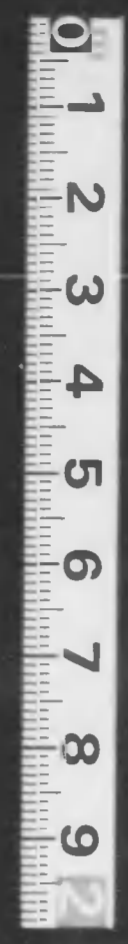


寫眞週報

情報局編輯
三月廿四日 第二十六四號



廢墟 重慶に

愚かしい幻影をみつゞける抗日戦指導者よ

よつく眼をあけてみるがいゝ

逞しい鼓動をつゞける南京の現實を――

そこに營々と營まれる一切が

そこに生々と生長する一切が

米英の走狗 汝等を

撃ち滅ぼさうとしてゐるのだ



同生共死に戦線
の戦勇軍府國

日十三月三
年周三都遷府國

蘇淮作戦に参加
した國府軍兵士
は敵八十九軍の
狙撃に勇戦する



↑ 戦術や機嫌を備へた國府軍精銳部隊のさかんな攻撃

共同戦線に死す 國府軍の戦

◁ 重慶軍頭上へ一發必中の彈を撃ち込む機銃筒の射撃

蘇淮作戦において敵韓徳勤麾下の八十九軍撃滅に皇軍4と協力した國民政府軍の活躍は實にめざましいものであつた。國府軍の鋭い進撃にたじ／＼の敵重慶政權は自力抗戦を呼號してはゐるものの、現實問題として外方の支援がなくては到底抗戦を繼續し得ない状態にあることは最早や周知のことである。このことは、恥も外聞も忘れた重慶政權が手を髪へ品を代へて、米國へ救援を求め泣訴歎願の醜態ぶりを見ればうなづけるのである。

また一方、アメリカは重慶治下の領上に、わが本土空襲の基地を設け、こゝに空軍の増強をはかつたが、その都度わが荒鷲の好餌となつたことは、既に知られてゐる通りである。

今回、國府軍が蘇淮作戦に参加したことは、とりもなほさず重慶即米英撃滅への共同戦列参加であり、強力なる訓練と充實した裝備を持つて同生共死の誓ひを果す雄しい出撃の姿であつた。



↑ 土頭頭上へ身を避け突撃命令を待つ

◁ 第一線めざして國府軍は勇躍進撃する





漸軌鐵道 復舊工事進展



敵はレールの撤去は勿論、踏盤までも破壊してゐる。それをかたづけしから修復してゆく



マニラとつて、一本々レールをつないでいつたその勞苦は戦争即建設のきびしい實踐であり、日華鐵道従業員の獻身的な協力は、全戦中國に盛りあがる同生共死の力強いあらはれといへよう



卓軍鐵道建設部隊と現地従業員は一體となつて測量を實施した國民政府南京還都三周年の日も近く、こゝ中支では戦禍の街からさらに前進して、たくましい鐵道建設の凱歌があがつてゐる。昨年十二月、現地高崎部隊の散開と日華鐵道従業員の誠私協力により、世界鐵道建設史上に未だかつてない神速さを以て復舊建設された浙贛線、金華一〇〇間の開通がそれだ



鐵道建設に先鞭する測量隊は測量の標架を置きしつゝさらに奥地へ進んで行つた



中國風民の肩に乗つて建設のレールは一本々枕木におろされ、運轉された



北支の廣大な平野には、幾
 條もの河川が運輸や灌溉に
 極度に利用されてゐるが、華
 北河渠建設委員會では、惠民
 土木事業の第一着手として、
 昭和十六年以來、石津運河の
 開鑿に力強い日華協力の實
 をよけてゐる。

この運河は、天津から南下
 する子牙河の小龍鎮と石門を
 結ぶ全長約三百五十キロの運
 河で、すでに導水路は殆んど
 開通、昭和二十年には完成
 される。この工事ははじま
 るや、これに協力した農民の延
 人員はすでに百數十万を突破
 して、農民経済の大きな成績
 をあげてゐるが、これが完成
 の際には、沿線灌漑地二万五
 千町歩におよび、棉花をはじめ
 り、農作物の増産はもとより、
 戦争遂行に不可欠な地下
 埋藏資源の天津への直接輸送、
 さらに〇千キロの水力發電
 も可能といはれてゐる。米英
 撃滅の兵站基地として華北の
 使命は、この運河の完成
 によつてさらに飛躍的な段階
 に達するわけで、それだけに
 この建設にまたる日華兩國民
 の熱意には、なみ／＼ならぬ
 ものがある。

鑛山では、北支の華
 北のふるはし戦士も強
 ハンマーを揮つて運河を
 前進させてゐる。

つたんこ／＼老人も
 供も調子をそろへて堤防の
 壁面を固めてゆく。



石津運河建設の雄姿 華北の總力



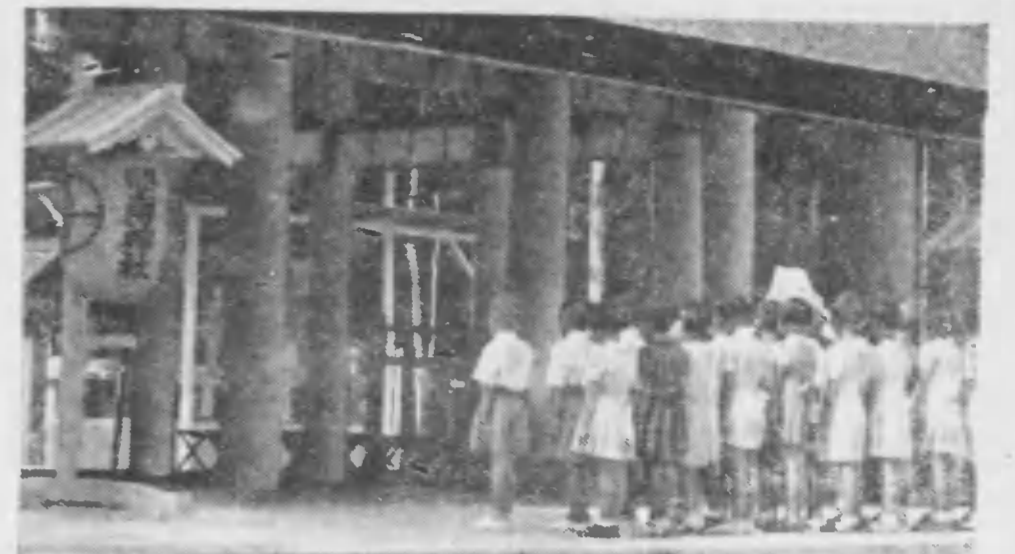
堤防の決壊を防ぐために蛇籠が常用に
 どん／＼出来上つた。

蛇籠が一定の間隔を置いて敷かれた
 さあこれで水が出ても大丈夫だ。

遠くかすむ大堤防の上に今日
 も朝のやうに賑々としたつづ
 農民が建設に邁進してゐる。



昭南神社鎮座祭



昭南神社の祭

昭南神社の祭は、五月十五日、マコト新
生一周年記念日の日、現
地昭南では、かねて南深の守
護神として現地軍官民はもと
より、現地住民も御祭な本任
を以て御祭にあらたうてま
た昭南神社の御祭が、昭南
に振りはれた。
また五月十七日には、多
方昭南行事を盛り込んだ御祭
かな、昭南が挙行され、各
隊対抗の本納式も大々、津海
軍人合同の本納相模、さうに
御祭、津海、支那、昭南、マコト
新など、其愛國色豊かな
御祭大会なり、現地將士
はもとより一般市民も心か
散で御祭一日を語り、昭南全市
は奉祝一色に染り溢れた。



昭南二宮の御祭に参る邦人児童

内地に於ては、祭に参る兵隊さんの假装行列



年 青 族 ヤ イ タ る な に 査 巡

北ポネオ = 北ポネオ市に開かれた

かつては善戦として恐れられた「海ダイヤ族」も大東亜建設に役を」と海ダイヤ族出身の巡査教習所が北ポネオの市に開かれた。戦前には、英蘭人に對し徹底的に反抗をいつけてきた彼等も、勇猛果敢な一面、情けなく恭順の意を表し、彼等の仲間からも特に優秀な者が選ばれ、お役に立たせられ、進んで志願するものが数千人に上り、このうちから更に選抜して厳格な訓練が行はれてゐる。



教習所から選抜された新入隊員が、訓練を受けてゐる様子。



元々大東亜建設に規律的な訓練を受けてゐる。



新村に於ける日本語の勉強から始まる。待たせられた期間の日、わづかの間に見かはずほど進歩した。



ホルネオのダイヤ族

陸軍報道班員 渡多 尚

ホルネオの原住民で最も多いのは海ダイヤ族である。合衆山系から流れて西へ流れ、南支那海に注ぐカブアース、レジヤン南大河の流域に廣く分布し、も上海賊などやつたこともあるが、その後、マライ、ジャワ方面から移住して来たマライ人や華僑に驅逐されて、だん／＼地味にはいつて貧乏や陸稻耕作をやつて暮らしてゐる。耕作といつても至極原始的なもので、ジャングルを焼き掃つてそのあとに棒杭で穴をあけ、種を突込んで自然の餘りを待つ、翌年は別の所でジャングルを焼くといふ次第で、山刀一挺が道具、腰刀を使ふことを知らぬ。いまわが軍政部で指導して水田耕作を教へてゐるが、これが成功したら漸次一ヶ所に定着するやうになるだらう。

海ダイヤ族は首狩で有名だが、これも狡猾な支那人にだまされたり根みや、英蘭人の搾取に對する復讐を幼穉な彼等がマライ人その他にもつて行つたりしてゐたことが多し。勇敢な戦闘に敵の首級を擧げること、英人が「ハラキリ」並に「野蠻」の刺印をもつて駈つて来たことを、今日そのまゝ受取る人はよもあまい。たゞ彼等は海ダイヤ族地方に十餘万といはれる

神宗祖、宗教の觀念がなく、白首と化した首をいつまでも飾つて置く風習がある。

日本が大東亜戦争で米英を驅逐して連戦連勝してゐることは、彼等の間にもよく知れ渡つてをり、眼のあたり見た日本人が同じ黒い毛髪、大差ない皮膚の色をして、誰が教へたか六尺棒を締めることを知つて、かつ軍人、軍醫の軍刀を自分達の山刀とくらべて「みんなサマサマ(同じ)」だといふ心から親しみの情をみせる。そしていままでおんなに倅さうにしてゐた英蘭人を叩きのめした日本軍に、絶對の尊敬をもち、日本人のいふことには一も二もなく心から服従する。従つて今後の指導さへよければ首狩どころか、善良勤勉な、ホルネオ開發になつてならぬ種族である。

ホルネオ原住民の中で最も憔悴で、かつ勁健種族として能力も支那人に次ぐものである。住民はニッパ椰子と竹で大家屋を建てて數家族が群居し、特徴は咽歌に人聲、髪を生を際をそり上げることにある。人口は絶えず移動してゐる上、英蘭人は首狩を恐れ、海ダイヤ族に約四十万、レジヤン流域地方に十餘万といはれる。



石油町のら

＝ 南ボネルオ ＝

この警察署の建物は一寸日本の警察に似てゐる。高い木の階上、白い壁、三人のインドネシアの巡査が道を歩いて迎へてくれた。

素道を越えてボネオの東門側バリックパンから面白い警察署がとどきました。バリックパンといへば皇軍が昨年二月二十四日に占領したボネオの『石油の町』です。當時蘭印軍の海上戦術にあつたこの町も、すぐに歸つてきた住民達の協力でもうすつかり元氣な姿にかへりました。この町は石油の町といはれるだけあつて、街を歩くと石油の臭ひが流れ、バリックパンの湾口に船が入ると林檎の注意をうけます。うっかり機銃を海に投げ込むと、海面に流れてゐる石油に火がついて、海になつてしまふといふ話です。

撮影 船務部職員



其のそのた船を出してこられ、手に持たれて一寸日本の出漁風景でうね。さてとん

戦意にこもる弾丸切手

敵軍前、手榴弾を投げかゝる百発の大筒の下で、今日は弾丸切手がぐんと賣れる。戦時朝、参謀の紳士、學生、防空服の婦人など、十日、陸軍記念日の東京の街は「撃ちてしまひ」一色の戦時色だつた。



うは戦くる明



「いあ〜と遠慮をかけて済みません。わたしたちも一生懸命つとめますから、皆様もどうぞ協力を」とは車内に花を添える車掌嬢の聲。なほ市電営業局は三月十五日から二十四日まで「車内こ〜運動」を実施、車内にも明るく闘はうを強化した

写真週報市電に乗って



「『苦勞さま』がお互の胸によれば、それがつい笑顔にもなつて外にあらはれようといふもの。車内のこと〜で、足の幅を乗り切つてゆかう



バスの場合は、市電よりも一層労働は強くなる。殊に昔ながらの「一ツ押せおれ」といふ言葉が、いまでは始業時刻一時間も前から出動して、おこしお始めなければならぬ苦勞もある。戦争が長期化するにつれて、生活に潤いひを失ひ、とかく些細なことでも角突き合ひ、さういふた感情のもづれがえてして目立つてくる。これでよいのだらうか。戦争に勝つには「天の時」でさへ、人の和に如かず」だ

和は、日本精神の精華だ。苦しみか置れば重なるほど、色濃くにじみでる戦友愛がもたらす和こそ、国内戦線を最後の勝利に導く鍵といつていい。「明もくはう」の提唱も、どんな苦勞も分け合ふ戦後の戦友愛が先づ上策になつてくる

そこでまづ、かく悩みのたねになる市民の足、市電の中に和を創りたいと、一日、東京のさる市電営業所を訪れた写真週報は「おい戦友、どうだい」と声を叩きながら、従業員苦勞のほどを訊ねてみた……まづ乗客だが、東京の市電が一年間に呑む乗客は昭和十二年の三億三千四百万人から、昭和十七年の七億と、一倍倍に跳ね上つてゐる。しかし四國の状況から考へて、従業員がそれほど増加してゐないことは當然納得できる。市電従業員の全般にわたり、戦前に比べ倍とはいはないが、相當の労働強化が眞先にみえてくる。次に一人々々の運轉手、車掌さんだが、世間の人が未だ殆んど起きてゐない始業から、完全に脱線まつた終業までの苦勞はまあ首ふま

運轉手さんは、大體一日一系統八往復する。一系統に停留所が平均二十五位あるから、一日に約四百の停留所を通過する。停留所毎の停車、発車、それに途中の交差点の加へれば、約一日千回は止めたり走りたりする。その外、車掌さんのお手傳ひで、乗客の降り降り監視や整理にもあたらなければならぬ。乗客の降り降りが激速でない、たまには遅だつのもまあ〜ゆるせると言ひたい位である

次に車掌さんの苦勞を聞いてみよう。車掌さんが一日に取扱ふ乗客が平均千五百人である。そのうち約六割の九百人が乗換客。あと六百人が乗換なしである。それで切符を切る場合、乗換客には、木切符と乗換切符と合せて四回（これは自分で敷へてみて下さい）切符を入れるから、九百人で三千六百回、それに乗換なしの木切符一回の六百回も入れると、一日約四千回は、あちよきん〜をやる譯である。なほ車掌さんは、一系統一往復に車體の中を十回往復するといはれる。車體が約十三メートルあつて一往復二十六メートル、それが十回づつ八回で二キロ近くになる。右往左往物置い捕れかたの、それもひどい人ごみの中で切符を切り、停留所の名前を告げ、乗客の整理をしながら半みちも歩くのである。それから取扱ふ金高が、一往復八十五圓で、一日七百圓になる。それも小銭ばかりである……

かういふ〜知つてくると「おい戦友、大變だな」と言葉もかたくなるではないか。戦地で兵隊さん同士の挨拶は何ごとによらず「苦勞さま」ださうである。この氣持、この言葉を戦後の戦友同士に浸み込ませようではないか

夜がふけるにつれて寒さもこたへてくる。だが、戦車が車庫に入ると早速掃除、愛車にそ〜今日一日苦勞さまの重荷ともいひたいところ



保輪工事にも、晝間に市民の足の妨げになるからといふ心配がある。「さあ、明日の朝までにの頭張りだ……」





◁ 『飛上つたら...からだ』と指導者は手真似で教へる



◁ 飛んだ! 飛んだ! 飛んだ! 飛んだ! 飛んだ! 飛んだ! 皆川さんのお母さんは見事に飛んだ



◁ 綱を引いたり、葉つたり、ヘト〜となったグライダー町會の婦人部隊員は空を制した喜びに宴会を美味さうに始める

大阪 - グライダーとちたんさばを



◁ 『グライダーといふものは...』に始まる講義が、愛機

「機體の養成は町會が引受けた」と大阪市西淀川區浦江北一丁目町會は馬淵清一氏を指導者としてグライダーの猛訓練を始めておます

男子町會員は勿論ですが、機體を集立たせるにはどうしても婦人の理解がなくてはと婦人に呼びかけ、いまでは五十餘名のグライダー婦人部隊を編成、彼女たちは機體とフライマリ―機體の操縦桿を握つて大空を制しておます

この婦人部隊の中には既に三級滑空士の腕前をもつてゐるものもあり、また、大空に親しむかうしたお母さんを持つ男の子供たちは敵米英軍滅の決意を空に爆發させようと、陸海の少年飛行兵となつて「グライダー町會」から多数集立つておます



◁ 小さな手が操縦桿を握り、大きな手がバンドを締める出口さん親子の訓練ぶり



陸軍記念日の帝都

軍樂隊の市中行進

東京 松田 萬三

陸軍戸山學校軍樂隊は神田神保町、神田、日本橋、銀座へと沿道市民の歡呼をまびつ、米英聯軍の軍樂行進を行つた。

敵アメリカを踏み潰せ、敵イギリスを踏み潰せ、敵ソ連を踏み潰せ、敵露國を踏み潰せ、敵日本文交の道路に踏み潰せ、敵俄國の軍樂行進を行つた。

各區對抗の武裝行進

東京市三十五區對抗の武裝行進は各區代表の青い年をまつて舉行され、各區とも敵軍にたすけて決闘に飛びこむ熱戦がみせられた上左

はくらはもやめてしまひ

東京 小橋 達夫

「これはわたしがいたの上」「僕のだつて聞かぬつてするよ」「一生懸命に描いた「マリエン」命たちは街角に貼つて廻つた



姿三四郎 映畫 東映 製作



本映畫は情報局國民映畫參加作品として企畫製作されたもので、明治初期の柔道創立當時に素材を取り、天才児の柔道修業を通じて、日本武道の厳正な精神を描いたものである。

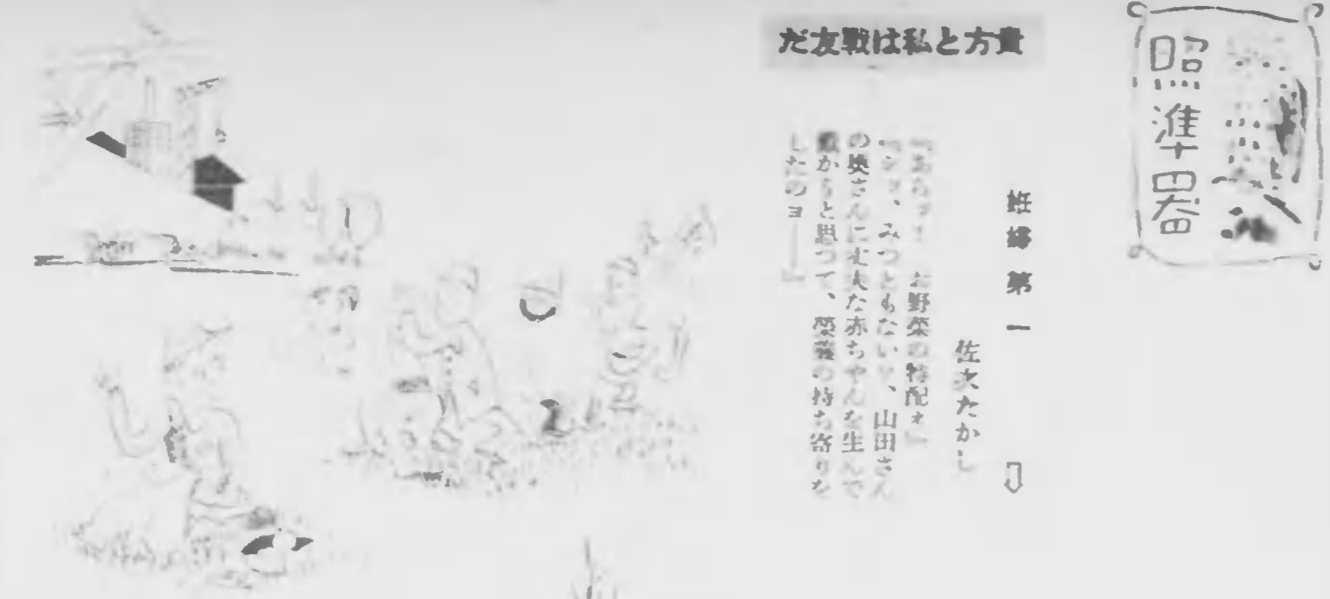
★表紙 寫眞 辛酸まつた行軍の休止に同生共死を誓ふ盟友と敵ふ一ぶくのうま味は、またなんと格別なことであらう 「オイ先生」と兵隊さんが呼びかけると、振り向くは名も知らない國府軍の敵友「何ですか上等兵殿」とにっこり日本新で答へる 「その火一寸借せや」 「これですか、どうぞ」 敵友の態度は明瞭で小氣味よい

照準器

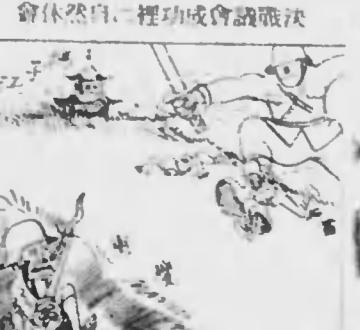
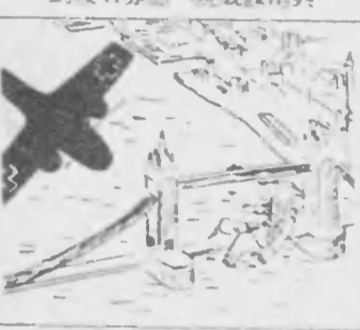
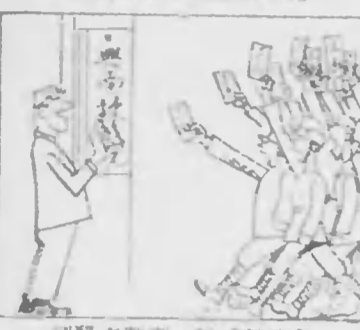
だ友戦は私と方貴

班長第一 佐次たかし

「あら、お野郎の特配オ」 「シッ、みつともない、山田さんの奥さんに走れた赤ちゃんを生んで置かちと思つて、愛護の持ち寄りをしたのヨ」



話日西渡争戦亞東大



遠隔軍機重 陸上前敵江子揚

信託で戦へ長期戦



上以四百五 額金
 十以年ヶ 間期
 (上以年五) 毎八分三 在現
 (上以年二) 毎六分三 當配

三和信託

本店(大阪)
 船場支店
 池田支店
 東京支店
 丸之内支店
 横濱出張所
 名古屋支店
 京都支店
 奈良支店
 和歌山支店
 御坊支店
 神戸支店
 廣島支店
 高松支店
 小倉支店
 福岡支店
 熊本出張所

寫眞週報 昭和十八年三月廿四日 第三千四百九十九号 印刷部發行 第一回分發行 第二回分發行

内閣印刷局印刷發行

訂読期間に本誌を お読みになつたら本 誌を前読期間に送り ませう。送料は内地 と同様に封封あるひ と同封にして第三種 と明記すれば、一部 一冊です	所 込 申 寫眞材料店 新聞販賣店 書店・賣店 全國各地官報 販賣所	定 價 一部十錢 (送料一錢) 外國郵送に依 る地域は送料 共一部十九錢 ▲預約配達御希望 の方は一部十錢 (送料一錢)の割 合を以て前金を 添(御申込み下 さい) ▲特大號の場合は 其の都度御申込 金より差額を申 受けます	昭和十八年三月 廿四日 印刷發行 編輯者 情報局 東京市神田區 永田町一ノ一 印刷者 内閣印刷局 東京市神田區大手町	寫眞週報 (兼轉載)
	〔列所掲載-A4新聞定額はより大の書本〕			